

水仙

皆さん、アジサイの花壇、職員玄関の前の植え込み辺り、ちらほら水仙が咲いていることに気付いているでしょうか？昨今は、その葉を「ニラ」と間違え食べてしまったことによる食害が取りざたされていますが、(そもそも、「ニラ」には、強いにおいがあります！気を付けてね！) この花には、洋の東西を問わず、数々の伝説が残されています。例えば、中国。かの地の仙人は、天にあるのが天仙、地にあるのが地仙、水にあるのが水仙。そして、この花は「水辺に育ち、命も長く、清らかな花をつけるので」まるで仙人のようだから、「水仙」と名付けられたとのこと。

さて、もう一つ、あまりにも有名なギリシャ神話を紹介しましょう。ちなみに、皆さんは、「ナルシスト」という言葉を聞いたことがありますか？その言葉のもととなった美しい少年「ナルキッソス」のお話です。むかしむかし、この美しい少年「ナルキッソス」に恋をしたニンフ（精霊）の「エコー」がおりました。ところが、「ナルキッソス」は自分の姿に見とれるばかりで、「エコー」の一途な愛に振り向きもしません。そのことを嘆き悲しんだ「エコー」はやせ細り、ついには「声」だけの存在（ほら！「エコー」です！）になってしまいました。この「エコー」を哀れんだ女神は、それでもなお、水面に自分の姿を映しては、うっとり眺めている「ナルキッソス」を、とうとう水辺に咲く一輪の「水仙」に変えてしまったのです。

「水仙」は、日本の土地とも相性が良く、放っておいても毎年咲くことが多い花です。（我が家の隣の空き地でも、毎年びっくりするほど丈夫で、きれいなラッパ水仙が勝手に咲いていました。）「水仙」は、球根で育つ植物ですが、花が終わった後、そのままにしておくと、球根が大きくなるという性質を持っています。（この点が、同じく球根で育つ「チューリップ」と違います。「チューリップ」は、「子株」が育つと「親株」は小さくなってしまいます。）ですから、残った

「親株」も、新しくできた「子株」も共に大きくなって、翌年、またきれいな花を咲かせるのです。

野に咲く花の少ない冬の季節にいち早く可憐な姿を見せる「水仙」。別名を「雪中花」ともいいます。その名にふさわしいたたずまいをもった花ですね。

